

取組事例の名称等

犬山市立羽黒小学校
(第5学年 総合的な学習の時間
お米から食を見つめよう)



取組の内容

1 米作りについて学ぶ (導入)

2 米作り体験 (体験)

- ・肥振り (4月)
- ・田植え (5月)
- ・稲刈り (10月)
- ・脱穀 (10月)

3 発表会 (まとめ)

1月に米作りを通して学んだことを発表する場を設けている。

ねらい

米作り体験を通して、地域の環境や食の大切さを理解するとともに、地域の方と一緒に活動することで、地域社会との協働を学ぶ。

工夫

- ・社会科の授業でも取り扱った米という身近なものをテーマとすることで、児童の学習意欲を高めるように展開。
- ・米作りから、自然環境、歴史、食などの多くの知識を得られるように、また、SDGsに関連づけた内容にするよう、授業構成を工夫。
- ・米作りの工程にはどのような意味があるのかを考え、作業の流れを理解しながら学習。
- ・電子黒板などを利用して、視覚的に米作りが学べるように工夫。

♡共感・納得 ♡見通しOK

- ・学校近くの学習田で、羽黒コミュニティの方が、田植への準備や稲の植え方をレクチャー。
- ・羽黒コミュニティの方の指導を受けながら、鎌での刈り取り、刈り取った稲を束ね、稲架掛けする作業や、農家が使っているバインダーによる刈り取りも体験。
- ・稲架掛けし乾燥させた稲を脱穀。羽黒コミュニティの方が昔ながらの脱穀の道具も紹介しながら、米作りの歴史も学習。

♡驚き・感動 ♡本物体験

- ・自分たちが体験した米作りの工程を振り返り、苦労したことや驚いたことなどを発表。
- ・体験を通じて感じたことや気づいたことを積極的に発信。

♡共感・納得 ♡成果実感

学習者の状況

米については、教科書で学んでおり知識はあるが、実際に米作りを体験したことがない児童がほとんどである。

学習者の反応

- ・米作りについて知っていることを児童同士で共有すると、新たな気づきがあり、驚きの声が上がった。

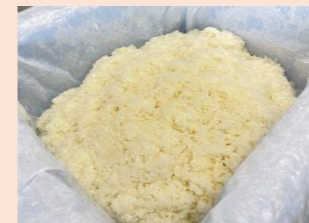
- ・自らの手で植えることができ、楽しそうな様子であった。



- ・稲刈り、脱穀により米作りを体験した後の児童には、達成感に満ちた笑顔があふれていた。



- ・相手に分かりやすいように、言葉や図を工夫して発表した。



炊き上がったお米

成果指標

米作りを通して、水田をとりまく環境や食の大切さを理解するとともに、地域の方と一緒に取り組むことで、地域社会との協働を学ぶことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・自然環境、歴史、食などに関する知識同士を結び付けることで、横断的な学びとすることができた。



- ・普段食べているお米がどのように生産されているか、田植えから脱穀までの一連の作業を通して実体験をもって学習することができた。



- ・発表の手順や内容を考え準備する活動を通して、自分たちが経験した米作りを再度振り返り、学習した内容を深めることができた。



4 関係者との連携・協働

- ・羽黒コミュニティ
- ・保護者

- ・羽黒コミュニティのもつ豊富な知識・経験による米作りは、児童が普通の授業ではできない、貴重な体験。
- ・お世話になった羽黒コミュニティの方を招待した感謝の会を開催し、世代を超えた交流の場を設定。
- ・保護者も米作り体験に参加することで、普通の学校での様子を知ることができ、家庭での振り返りに活用。

♡ 本物体験

♡ 見守り

♡ 成果実感

- ・保護者とは異なる年代の人から米作りを直接指導していただき、安心して作業を体感することができた。
- ・保護者が見守り、適度に手助けも得られたため、普段以上に張り切って体験に参加できていた。



- ・学校だけではできない体験を、地域との連携・共働により実現することで、広がりをもった学習にすることができた。
- ・学校の取組を家庭と共有し、家庭での振り返りに活用することで、家庭内での学び合いにつながることができた。



■犬山市立羽黒小学校（第5学年 総合的な学習の時間 お米から食を見つめよう）

- ・学校教育目標に「自主」「創造」「協力」を掲げている。
- ・第5学年の総合的な学習の時間では、児童の主体的学習や地域、世代間の学び合いを促していくために、羽黒コミュニティという地域の方の協力を得て、約20年にわたり米作り体験を実施している。
- ・総合の発表では、米の学習からさらに広げて、「食」のテーマで調べ学習を行った。
- ・身近な給食や、日本の食事・世界の食事など、様々なテーマから、自分が興味関心のあることについて調べ、スライドなどを使用して人に伝える学習を行った。



4月の肥振りや、土に養分を与えてから、5月に田植えを行った。コミュニティの方の指導で、米作りのための段取りや準備を理解し、作業体験することができた。



米の収穫後にお世話になったコミュニティの方に感謝の会を開き、世代を超えて、会話やゲームを楽しんだ。学校給食に、収穫米を使用し、全校児童に食べてもらった。

学習者の変容

【児童のコメント】

- ・自分が普段食べているお米が、こんなに手間をかけて作られていることを知り、ありがたいと感じた。
- ・脱穀では、千歯こきや輪転機など、昔使っていた道具を体感でき、作業の大変さを実感できた。

【先生のコメント】

- ・手での田植えや、いろいろな道具を使っての脱穀など、普段経験できない活動によって、子どもたちの学びがより深まったと感じる。
- ・昔の人の苦勞、米作りの楽しさなど、体験を通して学び、食材や、作る方への感謝の気持ちが高まった。

【保護者のコメント】

- ・子どもと一緒に米作り体験に参加することで、分かったこと、気づいたことを子どもと共有することができた。
- ・泥の中に素足をつけ作業したり、笑顔で友達と汗をかいてがんばったり、普段は家では見ることのできない子どもの姿を見ることができた。

【羽黒コミュニティのコメント】

- ・米作りを通して児童と交流することで、身近な地域について知ってもらうことができた。
- ・地域の子もたちとふれ合い、感謝されることで自分たちも力をもらった気がする。

成果と課題

【成果】

- ・米作りを通して、水田にすむ生きもの、地域の環境を知ることができた。
- ・自ら収穫したお米を食べることで、お米一粒一粒のありがたみを感じることができ、食育にもつながることができた。
- ・地域の方と一緒に実施することで、他者と力を合わせて取り組むことの大切さを理解することができた。

【課題等】

- ・地域の米作り農家が減少傾向にあり、担い手不足と高齢化に直面している。指導していただく米作りのエキスパートの方も減少しているため、いつまで今の形で続けられるか不安はある。